

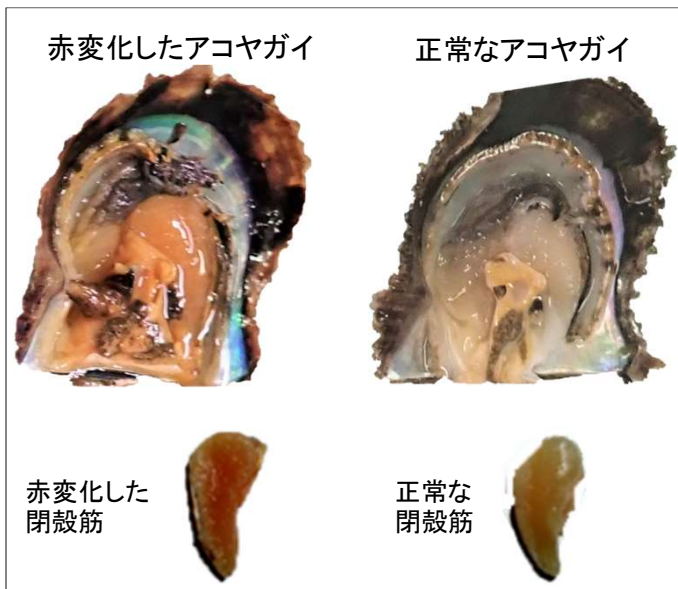
赤変病耐性の高いアコヤガイの選抜技術

アコヤガイの赤変病対策の必要性

●三重県の真珠生産量は、令和元年には3,546kgで全国3位となっています。三重県の真珠はアコヤガイを母貝として養殖生産されています。

●平成6年以降、アコヤガイの軟体部が細菌の感染により赤く着色し、衰弱してへい死する「赤変病」が発生し、真珠養殖業に大きな被害をもたらしています。

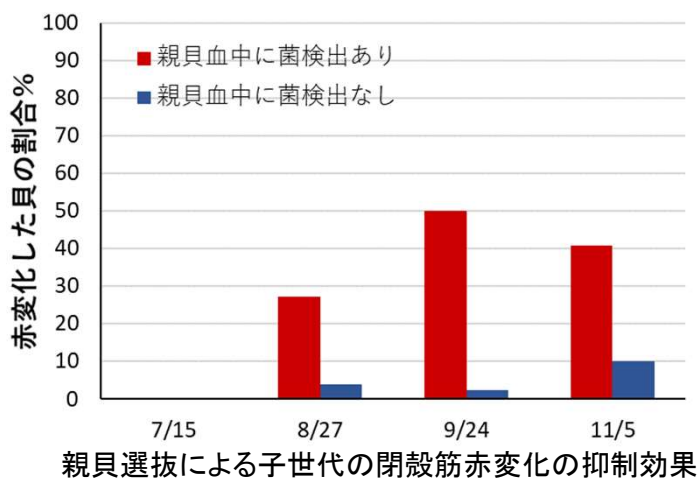
赤変病にかかりにくいアコヤガイを育種により作出する技術を開発し、被害を低減することが求められています。



赤変病原因菌数をもとにした選抜技術

◆そこで、三重県水産研究所では平成28年度から生物系特定産業技術研究支援センターの「革新的技術開発・緊急展開事業（うち先導的プロジェクト）」に参加し、そのテーマの一つである「耐病性や真珠品質にもとづくアコヤガイ選抜技術と育種素材の開発」の中で大学、国の研究所などとともに赤変病に対して耐病性の高いアコヤガイの選抜育種技術の開発と系統の作出に取組みました。

◆研究開発の結果、アコヤガイの血リンパ液中の赤変病原因菌数を調べ、菌が検出されないものを雌雄の親貝として選抜することにより、閉殻筋が赤変化しにくい、赤変病耐病性の系統を作出することができました。



三重県水産研究所 養殖・環境研究課

Mie Prefecture Fisheries Research Institute

〒517-0404 三重県志摩市浜島町浜島3564-3 TEL (0599)53-0016 FAX(0599)53-2225

(2021年3月発行)